東京新聞 2016年1月11日付
成城九丁目大石さん投稿記事→

同日東京新聞編集日誌
↓

編集日誌

○…首相が夏の参院選で改憲に必要な「三分の二の議席」を目指すことを明言しました。重大な宣言です。「三分の二」を阻止する人びとの取り組みとともに1面で扱うことにしました。

○…「自分の命が自分のもので無かった時代が、実際にこの国にあったことを忘れないでください」。発言欄ミラーにある九十歳の方の言葉。新成人にとりわけ読んでもらいたい投稿です。

東京新聞

ミラー

平和を思う90歳の新年

無職 大石 弘子 90
（東京都世田谷区）

自分の命が自分のもので無かった時代が、実際にこの国にあったことを忘れないでください。この国に戦争があり沢山の人たちがどのように何を思って死んだか、忘れないでください。私は太平洋戦争と共に若き日を過ごしました。若者たちは次々と戦争で死んでゆきました。無謀な戦争で国は大勢の若者を、砲弾代わりに使い殺しました。戦争とは、相手を、また自らをも殺戮し破壊することです。

戦争は、東京大空襲一夜で十万人を焼き殺し、広島・長崎の原爆投下で二十余万人もの人間を、セ氏三千～四千度の熱線で焼き爛れさせて殺し、都市を悉く焼き尽くしました。戦場となった他国の犠牲者も数え切れず、悲しみは例えようもない。これが戦争です。

安倍政権は歴史に学ばず、国民の声も聞かず、発する言葉は意味不明。平成二十七年九月十九日、安保法を成立させ「戦争のできる国」へと舵を切りました。沖縄基地問題、原発再稼働と他国への売り込み、武器輸出…私からすれば正気の沙汰とは思えません。声高に論う経済優先の「馬の人参」に誤魔化されず、私たちは確りと国の将来を見据え、安倍政権の〝戦争法〟に反対し続けましょう。

死んでいった人たちに代わり、私は続く世代に訴えます。

日本は二度と戦争をしてはならない。隣国や他の国々とも仲よくし、未来の平和を守り抜いてください。愚かな戦争で日本が得た唯一のもの、それが「憲法九条」です。夥しい命と引き換えに得た「平和憲法」を手放してはなりません。世界に向け、「戦争をしない」と言い続けましょう。戦争に、人間の未来はありません。